

記号番号	タイトル	内 容	時 間
D-1	自閉症の子どもたち バリアフリーを目指して	発達障害の早期発見と早期からの発達支援の現場にいる人々を想定して、少しでも自閉症の理解をしてもらおうと作られたものです。(日本自閉症協会発行)	30分
D-2	なぜ伝わらないのか、どうしたら伝わるか	<主な内容> 1. 主な「発達障害」についての解説 2. コミュニケーションが成り立つ要件 3. 対話をする際の配慮すべき点と工夫のポイント 4. 家庭での生活と良いコミュニケーションをとるための工夫例	32分
D-3	子どもが伸びる関わりことば26 第1巻	「関わりのことば」とは、子どもの発達にとって大切な意味を持つ一群のことばであり、人やものの見方、自分自身とのつきあい方を教えてくれることばです。	30分
D-4	子どもが伸びる関わりことば26 第2巻	それが使われる場面ごとに、子どもへの対応の仕方・習得することによる発達への効果についても解説されています。	30分
D-5	からだづくり、うごきづくり 【幼児・学童低学年編】	動きの基本となる筋力やバランスを保つ力などを中心に、その具体的な方法を紹介します。 また、運動を通しての動きを身につけるだけでなく、子どもとの関わりを深めていくことも目標にします。	25分
D-6	からだづくり、うごきづくり 【学童高学年・中学生編】	子どもから大人へと体が変わっていき、体力もつき、動きがダイナミックになるこの時期の大切な課題は、人に頼らず、自分の動きを自分でコントロールするという、社会で生きていくための基本的な力をつけることにあります。 よりしっかりした筋力や持久力をつけることを目指し、それらの動きづくりを中心に紹介します。	25分
D-7	健やかに暮らす 成人編	大人の体になった人の、体をほぐす運動を中心に、動きやすく疲れにくい体を作ることを目指します。	26分
D-8	思いっきり支援ツール	障害のある子は目に見えないことを考えたり、推測したりすることが苦手です。 約束を結ぶこと、ルールを守ること、計画を立てること、相手の気持ちを察することなど、これらの目に見えないことや目に見えないものを、支援ツールを使って「見えるようにする」「分かるようにする」「考えやすくする」などの支援の仕方を、このDVDでは紹介します	50分
D-9	発達障害の理解と支援 ～わかり合うって素敵だね!～	さまざまな障害の総称である「発達障害」という概念を、その歴史的経緯をふまえて、わかりやすく簡潔に解説します。また、療育の考え方や支援の要点を中心に、実際の療育現場を紹介しつつ、専門家による説明、現場担当者的話、保護者へのインタビューを交えて解説します。	64分

D-10	ちゃんと人とつきあいたい！ 子ども期	人間関係や社会的行動につまづきのある人が、人とうまく付き合うにはどのようにしたら良いのでしょうか？ 躓きの原因を探りながら、日常よく見かける事例を中心に、社会的スキルを獲得するための具体的な方法を解説・紹介します。	27分
D-11	ちゃんと人とつきあいたい！ 青年・成人期		23分
D-12	LD、AD/HD、高機能自閉症、アスペルガー症候群のある子どもたちの認知機能(1)	認知神経心理学の研究領域から、認知機能に関する検査、下位検査項目の構成背景や脳の情報処理過程との関係などについて、最新の研究成果等も交えながら基本的な理解を深めていきます。	130分
D-13	LD、AD/HD、高機能自閉症、アスペルガー症候群のある子どもたちの認知機能(2)	同時処理と継次処理、注意の解説をはじめ、現在、認知心理学などでの領域で話題となっているプランニング機能、新しい認知機能の評価手段である DN-RS についての DVD です。また、PASS 理論に基づいた実際の発達障害のある子どもたちへの支援、指導の方策についてももりこんであります。	150分
D-14	豊かな生活を実現する教育的支援 ～発達障害のある子どもたちの WANTS を高め・応える支援～	発達障害のある子どもたちに必要な支援について、本人が主体的に生活をコントロールすることの大切さ、そのための支援内容、アセスメント、教育者側が将来もとめられる方略について具体的事例を通して解説します。	160分
D-15	LD、AD/HD、高機能自閉症、アスペルガー症候群を理解する、二次的な問題への対応、地域の連携について	LD、AD/HD、高機能自閉症、アスペルガー症候群について基本的事項から二次的問題まで網羅されています。前半は、脳科学のトピック、子どもの発達、軽度発達障害の概要と各論について。後半は二次的障害について概観し、その背景、学校現場や家庭生活における対応、親の心情、本人への告知について具体的事例を交えながら解説されています。発達障害のある子どもたちに関わるすべての人の連携のありかた、子どもたちに関わる際の大切な心構えなど特別支援教育に携わる専門家必見の内容です。	330分
D-16	発達診断の実際 第4巻 2歳児	「1歳児編」で登場した同じお子さんの、2歳1か月と2歳8か月との間の変化を見ます。それによって、1次元可逆操作が密度高く充実していくことによって発達的には2次元を形成していく過程を、2歳児初期ではその萌芽を、2歳なかばを過ぎたところでは2次元形成が確かになっていく様子を学び、2歳児における発達診断のポイントを押さえます。	45分

D-17	あそびの中にみる2歳児 発達診断の実際（姉妹編）	ここで見る2歳児のあそびが1才の、特に後半におけるあそびと比較したときに、どのような特徴的な変化をし、さらに新たな可能性を持ってきているかがわかるようにしました。 これらをとおして、2歳児の場合、1才なかばの課題場面やあそびの場面において見た「場における方向転換（1次元可逆操作）」を獲得していくことによって、ただの遊びがさらに相手の気持ちや言っていること、していることがわかり始めて、力強く、面白く変化し、周囲の影響を内面に繰り込んでゆき、より自在に変わっていくことを示します。	30分
D-18	見て学ぶ 田中ビネー知能検査V	田中ビネー知能検査とは 田中ビネー知能検査Vの概要—開始から活用まで— 実施場面	110分
D-19	発達障害へのアプローチ 第1巻 解説編 ～代表的な発達障害及び基本的な対応～	学校には何か気になる子、少しだけ様子が違う子など、常に注意を向けていなくてはならない子どもがいます。医師による診断がつかず、境界線上にいる子どももいます。そういった発達障害を疑う子発達障害のある子に対して支援者はどのように対応したらよいのでしょうか？このDVDでは、映像ならではの子どもたちの生の姿と臨場感で、発達障害の全体像の理解を促すとともに、障害の特徴と指導法を解説します。	45分
D-20	発達障害へのアプローチ 第2巻 実践編 ～発達障害のある子が示しやすい10の特徴と指導法～		43分
D-21	発達につまずきがある子どもの子育て ～療育の実際～	子どもは沢山の可能性を持って生まれてきます。発達につまずきがある子ども達も、それは同じです。あれができない、これができないと思うことも多くあると思います。でも出来ないことを見るのではなく、今この子は何かができるのか？という見方をしてみましょう。何か月前を振り返ってみればその時から今日までの間に子ども達がわかってきたことや身につけたことが見つかるはずです。子ども達は必ず学ぶ力を持っています。特に年齢の小さいうちは変化も大きいものです。できることを探して、そこから次の課題をみつけていきましょう。	43分
D-22	発達につまずきがある子どもの社会生活力を育てる ～支援の実際～	発達に障害のある子ども達には、出来ないことがいっぱいあるように思えるかもしれませんが、でも子ども達にはまだまだ未熟な存在です。どんなことでも、学んでいく可能性を持っています。特に身辺自立では身の回りのことくらいは自分で出来るようになってほしいと思いますが大人にどう教えたらいいのかわからなかったりします。このDVDでは、そうした食事、着脱、排泄などの基本的な内容から手伝いや社会生活を送る上で必要な力まで身辺自立を広くとらえて紹介していきます。	39分

D-23	ことばを育てる ～語りかけ育児～	ことばの十分使えない赤ちゃんでも、気持ちはきちんと表現しています。例えばおもちゃを何回も渡すのは、モノと同時に気持ちも渡しているからです。また、目をきちんと合わすことで赤ちゃんは気持ちを伝える努力をします。そうした赤ちゃんのしぐさやちょっとした表情の変化に応えることで、赤ちゃんの気持ちは前向きになり、もっと伝えよう、もっと関わろうとします。このDVDでは赤ちゃんのそうしたひとつひとつの行為にどのような意味があるのか、どのような思いが込められているのか、それに対してどう応えたらよいのかなど、ことばがまだうまく出てこない赤ちゃんとお母さんの実際のやりとりをみながら、言語聴覚士が具体的に解説します。	65分
D-24	乳幼児の心理発達・その不思議	赤ちゃんは好奇心のかたまりです。見て、聞いて、触って、試行錯誤を繰り返して、頭の中で外の世界を認識する仕組みを作っています。「認知」機能を発達させながら、自分という存在を知り、自分以外の人やモノの存在を知っていきます。それは、赤ちゃんが生まれつき持つ能力を次第に開花させ、さまざまなものと触れ合うことで、発達のスPEEDを速めていく過程だと言えます。このDVDでは、0歳児から3歳児までの乳幼児の動きやしぐさなど「認知」「社会性」「言語」の3つのカテゴリーに分けて、その発達過程にアプローチします。	72分
D-25	発達障害と虐待 第1巻 気づきとその理解のために	とある小学校。 4年生担任の教師には、ちょっと気になる男の子がいる。授業中に別のことをやったり、隣の生徒にちょっかいを出したり、休み時間には一人で遊ぶことも多く、他の生徒との会話も少ない。発達障害の疑いがあるようにも思う。そんなある日、腕にあざがあるのを見つける。「まさか、虐待？」担任教師は養護教諭や特別支援教育コーディネーターに相談。その子に対する対応、発達障害と虐待をどう理解したらよいのか考えていくことになる・・・	35分
D-26	発達障害と虐待 第2巻 適切な対応のために	ポイントは・・・ ① 子どもの問題行動の背後にある発達障害や虐待への気づき ② 発達障害と虐待の違いや分かりにくさ、見分けることの困難さ ③ 発達障害と虐待のそれぞれの要因（親子関係や生活環境など） ④ 支援の枠組み	45分

D-27	あそびの中にみる1歳児 発達診断の実際（姉妹編）	この「あそびの中にみる1歳児」では、「ビデオ発達診断の実際 1歳児」の場合と同じく、同じ子どもさんの1歳1か月、1歳7か月、1歳10か月になった時のあそびをとりあげます。これを通して、1歳児の場合に、課題場面の1歳7か月においてみた「場における方向転換（1次元可逆操作）」を獲得していくことによって、あそびも力強く、面白く変化し、周囲の影響の効果も変わってくることをみていただきたいと思います。	30分
D-28	あそびの中にみる3歳児 発達診断の実際（姉妹編）	この「あそびの中にみる3歳児」では、2歳までに登場した同じお子さんの3歳1ヶ月、3歳7ヶ月、3歳10ヶ月の時のあそび場面の一端を見ていただくことによって、3歳初期における2次元可逆操作の獲得前と、その半年後、2次元可逆操作の獲得期の3歳中期と、獲得が進行し始めた3ヶ月後の3歳後期の3期における発達的变化を見ていただきたいと思います。	30分
D-29	あそびの中にみる4歳児 発達診断の実際（姉妹編）	このビデオでは、3歳までに登場した同じお子さんの4歳1ヶ月と4歳11ヶ月の時のあそび場面の一端をビデオ「発達診断の実際 4歳児」とあわせてみていただくことにより、4歳初期における2次元可逆操作の獲得期と、獲得が進行し、2次元可逆操作の主人公となって立ち動く10ヵ月後の4歳後期との2期における発達的变化をみていただけるようにしました。	30分
D-30	発達診断の実際 第3巻 1歳児	1次元形成期、1次元可逆操作期とその後のI次元形成期の特徴が直立二足歩行獲得後の体全体の運動レベル、手による物の操作レベル、ことばの使用レベルでわかるようにしました。	46分
D-31	発達診断の実際 第5巻 3歳児	「あそびの中にみる3歳児」と共に、これまで協力して下さった子どもさんたちの3歳1ヶ月と3歳10ヶ月の間の変化を見ます。それによって、2次元形成後期から2次元可逆操作の獲得を始めていくようすを、同じ時の課題場面とあそび場面の両方から学び、3歳児の発達診断のポイントを押さえます。	45分
D-32	発達診断の実際 第6巻 4歳児	2次元可逆操作の獲得が始まったところの3歳後半をうけて、その可逆操作の獲得進行に伴い、どのような発達の姿が示されてくるのかをみていきます。	45分
D-33	あそびの中にみる5歳児 発達診断の実際（姉妹編）	5歳になると、あそびを通してルールを伴う人間関係を織り出し、「うち」の世界から「そと」の世界と結合し、「自己」を形成していきます。そのようなすがたをあそびの中で確認していきます。	30分

D-34	あそびの中にみる6歳児 発達診断の実際（姉妹編）	通常3歳後半から4歳前半にかけて獲得される2次元可逆操作を柔軟に発揮させて自制心をそなえて、通常発達の3次元世界を形成し、それを前提に5歳後半になると生後第3の新しい発達の力が発生し始めます。 6歳には生後第3の新しい発達の力の発生が中期を迎えます。	30分
D-35	発達診断の実際 第7巻 5歳児	2次元可逆操作を系列的に、内面的に展開させながら発達の3次元を形成していくようすをみていきます。 さらにその3次元の形成をすすめながら、新しい交流の手段としての読み、書き、数のことばを獲得し始める姿について考えていきます。	45分
D-36	発達診断の実際 第8巻 6歳児	このビデオでは、保育所での6歳児として生活から、小学校入学後に一学期を終えるまでに「理を身に付けていく」過程をみて、考えていきます。	45分
D-37	赤ちゃんが泣きやまない 泣きへの理解と対処のために	赤ちゃんの泣きの特徴を知る 赤ちゃんは泣くのが仕事 揺さぶりのメカニズムを知る 揺さぶりによる乳幼児への影響 赤ちゃんの泣きへの対処法 赤ちゃんがどうしても泣きやまないとき 決して赤ちゃんを激しく揺さぶらないで	11分
D-38 (H27購入)	3歳児からの心理発達	3歳から就学前くらいまでの幼児の心理発達について見ていきます。この年齢は様々な認識がはっきりし出す時期であり、自分と他者との関係や認知の仕方や表現など、その発達過程はめまぐるしく急速に成長していきます。ここでは、確立された既知に事実をもとに、最新の新しい知見を加えて、4つの領域に分けて紹介します。 「認知」「概念・思考」「言語」「社会性」、それぞれの中で課題を設定し、子どもたちの言葉や行動から見えてくる発達心理の状態を具体的に解説します。	60分
D-39 (H27購入)	発達障害の臨床 1 発達障害の概念／理論	発達障害の歴史的経緯、医学的な発達の定義を学びそれぞれの特性（主として精神遅滞、ADHD、自閉症スペクトラム、学習障害、発達性協調運動障害）の解説、概論を中心に学びます。視聴のポイントとしては、それぞれの障害が単独のものではなく重なり合い、脳機能の障害そのものがその人の生きづらさに直結するのではなく、生活のしづらさに現れるという点を理解することです。また乳幼児期に不適切な養育により見られる虐待や思春期以降に見られる二次障害についても知ることも目的としています。	43分

D-40 (H27購入)	発達障害の臨床 2 医療ができる支援の実際	親を支えることが子どもの育ちを支える。これが第2巻のテーマです。どんな障害であれ親はわが子の問題を自分の問題として受け止め、自責感でいっぱいです。医療者や支援者は発達障害そのものの改善を行うことよりも、その人の生きづらさを生み出す環境を改善することの方に、より多く目や心を向けるべきです。当事者よりも周囲の人たちの方がより大きな努力をする必要があるのです。また本人への障害告知の問題も療育に関わる者にとっても大きな問題です。いつどの時期にどのようなタイミングで伝えるかですが、その際には優れている機能についても、しっかり説明することが大切です。また告知を受けた当事者の方にもお話を聞いています。合わせて良い子育てを行うペアレントトレーニングについての解説もしています。	51分
D-41 (H27購入)	発達障害の臨床 3 多職種連携とその進め方	多職種連携について触れます。発達障害は一生涯のサポートが必要な障害です。人生のいろいろな時期に関わる人も異なります。しかしながら関わり方や手法は異なってもその人への対応は一貫した視点を持つ必要があります。関係者が互いの専門性を発揮しながらよりよい療育や支援が進むにはどうしたらよいか解説しています。具体的な映像として長野県、横浜市での事例をご覧ください。それぞれの巡回相談、関係者会議、また親と子を支える活動など関係者が知っておく必要がある場面も紹介しています。	54分
D-42 (H28購入)	合理的配慮 第1巻 合理的配慮とは	発達障害や知的障害の人が自立した生活を送るための支援にとって必要なのが「合理的配慮」です。「合理的配慮」とは平成28年4月に施行された「障害者差別解消法」に明記されています。具体的には、合理的配慮に必要な環境の整備、人の確保、個別指導の配慮行うこととあります。第1巻では、概念的な理解を促すために講座形式で合理的配慮を考えます。	32分
D-43 (H28購入)	合理的配慮 第2巻 合理的配慮の実際	第2巻では、実際の子どもたちへの合理的な配慮の個別指導を17のケースで紹介します。	34分
D-44 (H28購入)	障害児の早期発見とスクリーニングアセスメント	障害のある子どもや疑いのある子どもには、早期から発達段階に応じた一貫した支援を行うことが重要であり、早期発見と早期支援の対応の必要性は極めて高い。早期発見の場面としてある、家庭、保健センター等の健診、保育園、病院、療育施設などでの「気づき」に始まる支援の在り方を、「早期発見」「スクリーニング」「アセスメント」の側面から見ています。	19分

D-45	育ち合う保育	ポーターズ早期保育教育プログラム チェックリストに沿った発達の確認をし、発達水準の異なる一人一人の子どものニーズに対応しながら、グループで共通の目標を持った多層水準指導をすることの紹介	35分
D-46 (H28購入)	子どもの発達と支援 運動機能の発達	運動機能の発達の概要と、観察のポイントをわかりやすく解説します。 また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。	21分
D-47 (H28購入)	子どもの発達と支援 情動の発達	情動の発達の概念と、観察のポイントをわかりやすく解説します。 また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。	20分
D-48 (H28購入)	子どもの発達と支援 社会性の発達	社会性の発達の概念と、観察のポイントをわかりやすく解説します。 また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。	21分
D-49 (H29購入)	子どもの発達と支援 ことばの発達	新生児期から6歳児までのことばの発達を、言語理解と発語という2つの側面から見ていきます。またマザーリースといわれる特有の話し方について見ていきます。 乳幼児期からのことばがけ、絵本の読み聞かせの重要性や注意点、また乱暴な言葉使いへの対処などを見ていきます。	21分
D-50 (H29購入)	子どもの発達と支援 認知・思考の発達	ピアジェによる思考について解説し、発達段階のうち感覚運動期、前操作期、の認知・思考の発達を見ていきます。 「注意力が続かない」「見立て遊びができない」等に対する支援方法や、子どもの質問期への対処法などを見ていきます。	22分
D-51 (H29購入)	赤ちゃんの一年 姿勢と運動の発達 前編 (0～6か月)	赤ちゃんの気持ちが見えるよう姿勢運動発達をわかりやすく解説し、発達に応じた対応の仕方、赤ちゃんが努力する姿を見て育児が楽しくなるように工夫させていきます。	26分
D-52 (H29購入)	赤ちゃんの一年 姿勢と運動の発達 後編 (7か月以降)	赤ちゃんの気持ちが見えるよう姿勢運動発達をわかりやすく解説し、発達に応じた対応の仕方、赤ちゃんが努力する姿を見て育児が楽しくなるように工夫させていきます。	26分



D-53 (H29購入)	主体的な遊びで育つ 子ども	子どもたちは遊びの中で、成長し発達する糧となる体験が多く含まれている。子どもが主体的に遊び、その遊びが充実するための環境づくりや援助の在り方を考える。	75分
D-54 (H29購入)	自閉者が語る幼少時代 第1巻	藤家さんの幼少時代 とってもつらかった・・・	30分
D-55 (H29購入)	自閉者が語る幼少時代 第2巻	アスペルガー症候群の認知度 気づいて欲しかった・・・	30分
D-56 (H29購入)	発達障害を“感覚”と “運動”の視点から捉える ①	最近のこどもたちの様子とその背景	84分
D-57 (H29購入)	発達障害を“感覚”と “運動”の視点から捉える ②	感覚と運動の機能	58分
D-58 (H29購入)	発達障害を“感覚”と “運動”の視点から捉える ③	感覚・運動機能の臨床観察法	96分
D-59 (H29購入)	発達障害のある子どもと 話すポイント 第1巻 知的障害編	発達障害のある子どもが、コミュニケーションを取る際に何に困難を感じているのか、また、それらを解決するためには、具体的にどういった対応をすればよいか、その方法を紹介する。	42分
D-60 (H30購入)	発達障害のある子どもと 話すポイント 第2巻 ASD編	発達障害のある子どもが、コミュニケーションを取る際に何に困難を感じているのか、また、それらを解決するためには、具体的にどういった対応をすればよいか、その方法を紹介する。	49分
D-61 (H30購入)	子どもの社会性を育てる ～保育現場に見る「保育・人間関係」～	保育現場（保育園）での子どもたちの生活の中での社会性の獲得について見ていきます。	40分
D-62 (H30購入)	子どもの「ことば」 ～保育現場での成長・発達～	保育現場（保育園）での子どもたちの言葉のやり取り、発せられるひとつひとつの言葉にはどんな意味があるのかを紹介する。	39分
D-63 (H30購入)	障がい児の食事支援 ～子どもの伸びる力を 信じる～	子どもの食行動と食べる楽しさを引き出すための食べる機能を促す支援はどのようにしたらよいか、を考えます。	30分
D-64 (H30購入)	ことばとコミュニケーションの 評価と指導 第1巻 ことばを獲得 し始めた子ども	長年の療育の実績から得られた実効性のある「ことばの獲得」への道筋を詳細に紹介しています。	37分

D-65 (H30購入)	ことばとコミュニケーションの評価と指導 第2巻 相手を意識してことばを使い始めた子ども	長年の療育の実績から得られた実効性のある「ことばの獲得」への道筋を詳細に紹介しています。	43分
D-66 (R1購入)	「育てにくさ」を理解する～4つの要因(24事例)からのアプローチ～	「育てにくさ」とは、子育てにかかわる者が感じる困難感のことであり、その背景として、子どもの要因、親の要因、親子関係に関する要因状況、状況や支援など完了用に関する要因などが考えられます。この4つの要因に着目し、想定される事案をドラマ仕立てにして、育てにくさの原因や対応例を示します。	90分
D-67 (R1購入)	苦手をできるに変えるからだの作り方 第1巻 基本の動作～座る・バランス・見る	このDVDでは、体の仕組みからどのような動きの練習をすれば「できる体」になるのかを基本に、学校と家庭ですぐに取り組むことのできる指導法、遊び感覚や身の回りのものを活用した指導を紹介しています。 【内容】①座るのが苦手 ②立つのが苦手 ③バランスを保つのが苦手 ④指を使うのが苦手 ⑤見るのが苦手	26分
D-68 (R1購入)	苦手をできるに変えるからだの作り方 第2巻 手の動き～えんぴつ・ハサミ・箸	このDVDでは、体の仕組みからどのような動きの練習をすれば「できる体」になるのかを基本に、学校と家庭ですぐに取り組むことのできる指導法、遊び感覚や身の回りのものを活用した指導を紹介しています。 【内容】①鉛筆で書くのが苦手 ②ハサミで切るのが苦手 ③定規を使うのが苦手 ④コンパスを使うのが苦手 ⑤鍵盤ハーモニカを吹くのが苦手 ⑥リコーダーを吹くのが苦手 ⑦箸で食べるのが苦手	22分
D-69 (R1購入)	苦手をできるに変えるからだの作り方 第3巻 運動～走る・なわとび・鉄棒	このDVDでは、体の仕組みからどのような動きの練習をすれば「できる体」になるのかを基本に、学校と家庭ですぐに取り組むことのできる指導法、遊び感覚や身の回りのものを活用した指導を紹介しています。 【内容】①走るのが苦手 ②前転が苦手 ③なわとびが苦手 ④鉄棒(逆上がり)が苦手 ⑤ボールをとるのが苦手 ⑥ボールを投げるのが苦手 ⑦水泳(クロール)が苦手 ⑧とび箱が苦手 ⑨サッカー(ボールキック)が苦手	24分

D-70 (R2 購入)	発達障害の理解と対応④ 未就学児編—自閉症を中心に—	この講演では、自閉症スペクトラム障害を中心に、発達障害の特性や具体的な対応方法、身に付けておきたいスキルとそのトレーニング方法をお話しします。 A1 発達障害総論 108分 A2 生活習慣を身に付けるために 90分 A3 就学に向けて身に付けたいこと 76分	274分
D-71 (R2 購入)	発達障害の理解と対応④ 学童期～思春期～青年期編 —自立をめざす—	この講演では、将来の自立に向けたライフスキルトレーニングと、この時期に起こる様々な問題の対応方法をお話しします。 B1 発達障害総論 99分 B2 学童期～思春期～青年期の問題 94分 B3 大人になって自立するために 90分	283分
D-72 (R2 購入)	私の発達障害を語ろう	このビデオでは、発達障害のある本人が、自分の障害を隠すところなく、率直に語っている。彼らが苦しんでいること、困っていること、望んでいることが、画面のなかからストレートに伝わってくる。	109分
D-73 (R2 購入)	発達障害と家族支援 ～ある家族の記録～	この作品は、兵庫県神戸市に暮らすある家族をテーマにしたものである。この家族は、両親と男の子3人の5人家族なのだが、そのうち父親を除く4人が、発達障害の診断を受けている。 第1部 家族の誕生 第2部 家族の成長 第3部 家族支援	63分
D-74 (R3 購入)	子どもの「遊び」	乳幼児に焦点を当て、保育園・幼稚園・こども園で実際に遊んでいる子どもの映像から、理論的解明や学術的考察において、「遊び」がどのような意味を持っているのかを解説するという形をとります。	50分
D-75 (R3 購入)	子どもの障害の理解と支援 第1部 発達障がい 第2部 発達期の障害	第1部では発達障害について近年の動向を考慮しつつ解説します。第2部ではその他の発達期に現れる主なものを解説します。	106分
D-76 (R3 購入)	障害児への専門的指導法	障害児への指導法や療法は様々あり、それぞれの状況に合わせて実践されています。このDVDでは、初めて見る人でも理解しやすいように簡略に11のそれぞれの指導法を5～6分で解説します。	73分

D-77 (R4購入)	「気になる子」への支援アプローチ1 ◆ペアレント・トレーニング ◆ABA トレーニング	発達障害のこども、医療的には診断名がついていないがその疑いがある子ども、問題を抱えている子どもなどいわゆる「気になる子」への支援にはいろいろな問題が絡み合い一様には解決しないことが多いです。しかしそうした中でも様々な支援が試みられています。このDVDではそのような支援や療法、課題を解決する方法、アプローチ法などを紹介します。 ペアレント・トレーニング 22分 ABA トレーニング 16分	38分
D-78 (R4購入)	「気になる子」への支援アプローチ2 ◆感覚統合 ◆ホースセラピー	発達障害のこども、医療的には診断名がついていないがその疑いがある子ども、問題を抱えている子どもなどいわゆる「気になる子」への支援にはいろいろな問題が絡み合い一様には解決しないことが多いです。しかしそうした中でも様々な支援が試みられています。このDVDではそのような支援や療法、課題を解決する方法、アプローチ法などを紹介します。 感覚統合 20分 ホースセラピー 12分	32分
D-79 (R4購入)	インクルーシブ保育の実践 ～共生社会をめざして～	インクルーシブ保育・教育は現在提唱の段階が過ぎ実践が始まっています。学校では特別支援学校や特別支援学級などの整備が進んでいますが、未就学児に関しては保育園・幼稚園・こども園では障害児も健常児も分け隔てない保育が行われています。そんな中、下町情緒が残る東京葛飾にある「葛飾こどもの園幼稚園」では様々な試行錯誤の取り組みをもう数十年行っています。その入園児たちはどのような生活を送っているのでしょうか。どのような保育がなされているのでしょうか。障害を持った子や、境界線上にいる気になる子や、何らかの手助けが必要な子（例えば、医療的ケア児、海外国籍の子）或いは、集団生活にまだ不安がある子、友達との関係がうまく作れない子、一人静かに過ごしたい子、保育者と密に遊びたい子などへの保育はどのように行っているのか、その全貌を映像で紹介します。	30分
D-80 (R5購入)	新・発達障害の理解と支援	【制作趣旨】発達障害は、アメリカ精神医学会のDSMの2013年の改定（DSM-5）や日本では2017年の発達障害支援法の改正など支援体制の変化、また保育教育現場での「育てにくさ」や「気になる子」問題の顕在化など、「発達障害」という言葉をメディアで日々多く目にするようになっていきます。また教育関係では特別支援教育・インクルーシブ教育が養成機関での必修科目になるなど変化が著しくなっています。こうした現状の中で、発達障害の正しい理解と同時に現状への対応が求められています。今回はこの変化を捉え直し、新しい	92分

		<p>知見も加えて「発達障害の理解と支援」の現状での決定版を映像化します。</p> <p>【基本姿勢】発達障害は「知的障害を含む包括概念であり、人間が生まれてから成長・発達していく過程において何らかの原因によってその発達過程が阻害され、運動、行動、認知、知能、言語など様々な機能に障害が起こること。」という概念に準じます。</p>	
D-81 (R5購入)	<p>「気になる子」への支援アプローチ3</p> <p>◆DCD（発達性協調運動症）～運動の不器用さがある子どもへの対応～</p>	<p>発達障害のこども、医療的には診断名がついていないがその疑いがある子ども、問題を抱えている子どもなどいわゆる「気になる子」への支援にはいろいろな問題が絡み合い一様には解決しないことが多いです。しかしそうした中でも様々な支援が試みられています。このDVDではそのような支援や療法、課題を解決する方法、アプローチ法などを紹介します。</p> <p>DCD（発達性協調運動症）32分</p>	32分
D-82 (R5購入)	<p>インクルーシブ保育・遊びの力</p>	<p>「遊び」は子どもの行動の基本です。その「遊び」を見れば子どもの発達も見えてきます。それは障害のあるなしに拘らないインクルーシブ保育ならではより顕著に見えてきます。今回は「遊び」をインクルーシブの視点から紐解きます。そのためには「遊び」という活動は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. おもしろさ、楽しさ、喜びを追求する活動である（精神の集中性）</li> <li>2. 自発的で積極的な活動である（自発性、自己完結性）</li> <li>3. その活動自体が目的である（自己目的性）</li> <li>4. 他の日常性から分離された活動である。非日常的である（精神の非日常性）という要素を基本とします。</li> </ol>	30分